

子どもたちが いきいきと輝く 学校を目指して



名古屋市教育委員会

「子どもたちがいきいきと輝く学校」を目指して

全ての学校が
子どもたちにとって
いきいきと輝く場所になることは
みんなの願いです

しかし、名古屋市内の学校には
少子化による学校の小規模化や
校舎の老朽化に伴う様々な課題があります

名古屋市は
こうした課題を解決し
「子どもたちがいきいきと輝く学校」を
実現したいと考えています



Q 『子どもたちがいきいきと輝く学校』とは、どんな学校でしょうか？

A 『子どもがいきいきと輝く学校』とは、子どもたちが多くの友だちとふれあいながら成長し、子どもと先生とがいきいきと関わり合うことができる学校と考えています。そのためには、一定の集団規模が必要です。

また、学校施設の老朽化が進んでいることも課題となっています。

そこで、名古屋市では『ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画』をつくって、次のような学校ビジョンを実現したいと考えています。

実現したい学校ビジョン

《 教育面から 》

- 多くの考え方に触れ、切磋琢磨することで、社会性や向上心などを高めることができる
- クラス替えを契機として意欲を新たにしたり、新しい人間関係を築く力を身に付けたりすることができる など



《 学校運営面から 》

- より多くの先生によって、子どもの評価を多面的に行える
- 先生の数が多くなり、校務や行事の事務分担を適切に行えば、先生が子どもと向き合う時間を、より多く生み出すことができる など

《 施設面から 》

- 学校統合を契機に、必要に応じた改修や増改築を行うことで、老朽化の進む校舎の早期改善をし、安心・安全・快適な校舎を確保する
- 多目的教室やICT環境の整備をはじめ、教育環境の多様な変化に、優先的に対応する など

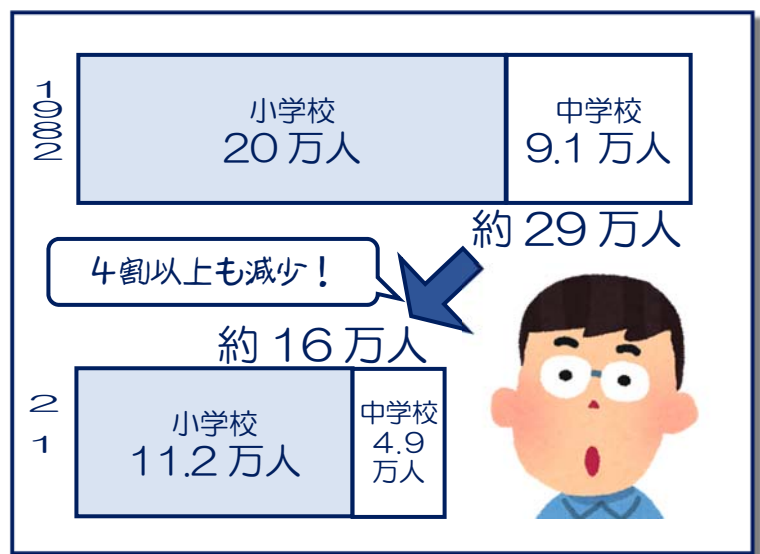


Q 「学校ビジョン」を実現する上で、名古屋市の小中学校には、どんな問題がありますか？

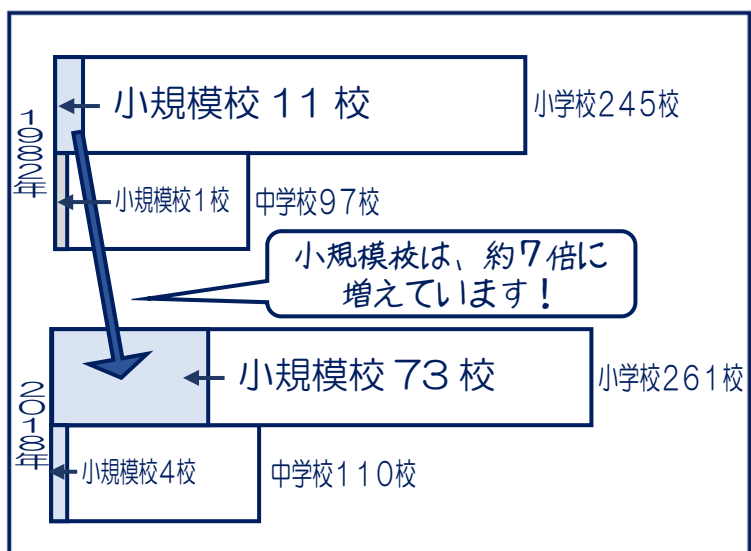
A 名古屋市の小中学校には、主に2つの問題があると考えています。

学校の小規模化

少子化の状況は、大都市である名古屋市においても、例外ではありません。名古屋市の子どもの数は年々減り、現在では、ピーク時の昭和57年(1982年)から、4割以上減少してしまいました。



【 名古屋市立の小・中学校の子どもの数の推移 】



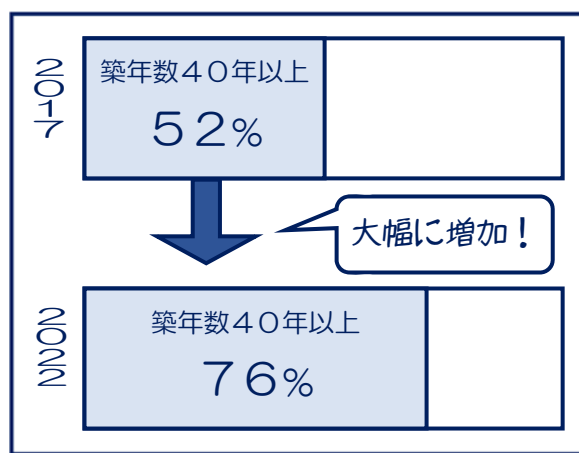
【 名古屋市立の小・中学校の小規模校の推移 】

逆に学校の数は、子どもの数のピーク時(1982 年)より、29 校増加しています。子どもの数が少なくなっているにもかかわらず、学校の数が増えていることから、小規模校は増えています。

※ 小規模校とは、特別支援学級を除く学級数が、小学校では 11 学級以下、中学校では 5 学級以下の学校です。

学校施設の老朽化

昭和 40～50 年代に、子どもの数が急増したことを受けて、多くの校舎を建設しました。そのため、2022 年には、全体の約4分の3の校舎が築 40 年以上となり、一斉に改築・改修の時期を迎えることとなります。



【 名古屋市立の学校施設の老朽化状況 】

しかし、これまでのように築 40 年程度で改築すると、毎年必要となる整備費が2倍以上となるため、名古屋市では、持続可能な範囲で安心・安全・快適な学校施設を維持するためには、次のことが必要であると考えています。

- 学校施設の長寿命化等による整備手法の見直し
- 学校の統合による保有資産量の適正化

等

Q これらの問題をどのように解決するのですか？

A 名古屋市では、『ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画』をつくり、小中学校において、望ましい学校規模を確保する取り組みを進めたいと考えています。

そして、

- 児童・生徒が増え、子どもたちが多くの人とふれあい育つことができる
- 学級数に応じて教員が多くなり、子どもとより向き合うことができ、指導が充実できる
- 学校統合を契機として、施設の老朽化を改善することができる

このような学校ビジョンを実現し、『子どもたちがいきいきと輝く良好な教育環境』を目指します。



「子どもたちがいきいきと輝く学校」を目指して

望ましい学校規模を確保する

学校が統合される

通学する学校が変わる

これらは大きな変化であり

保護者や地域の皆様に

多くの疑問や不安が生まれます

名古屋市は

そうした疑問や不安に向き合い

子どものことを第一に考えて

1つ1つ解決していきたいと考えています



Q 子どもが通っている学校は小規模校ですが、むしろよい面の方が多いのではないかと思います。それでも統合は必要ですか？

A 小規模校には、次のようなよい点があります。

- 学校行事等で、全ての児童・生徒に役割や活動する場を与えやすい
- 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える など

しかし、学校教育を進める上で、次のような課題もあります。

- 多くの人と関わり、多様な考え方に触れる機会が限られる
- クラス替えができないため、人間関係の固定化が生じやすい
- クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- 学校行事や児童会・生徒会・委員会活動などで、児童・生徒の役割、位置付けが固定化しやすい
- 先生の数が少なく、先生一人あたりの負担が重くなる
- ベテランから若手、男性・女性など、バランスのよい先生の配置が難しくなる など



小規模校が統合等により、望ましい学級規模になれば、小規模校のよい点を可能な限り維持しながら、課題を解決できると考えています。

Q 学校統合すれば、通学距離が長くなると思うけど、通学路の安全対策はどうなるの？

A 通学距離は、小学校では徒歩で概ね2km、中学校では概ね3kmとしています。

統合後の新しい通学路については、警察や関係機関とも連携しながら、また、保護者や地域の皆様にもご協力をいただきながら、安全の確保に努めます。



Q 子どもたちが、統合後の新しい学校になじむことができるか心配です。

A これまでの統合校では、統合までの準備期間などに、統合する学校同士の交流活動を行いました。校外学習を一緒に行ったり、体育のゲームなどで対戦したりと、いろいろな取り組みを行いました。



また、新しい統合校に、子どもたちの様子をよく知っている統合前の学校の先生を、バランスよく配置するようにしました。

Q 統合後の学校の跡地はどうなるの？

A 跡地となった場所は、保護者・地域の皆様の声を聞きながら、有効に活用され始めており、公園やコミュニティセンター、保育園などになっています。



Q 学校の防災機能はどうなるの？

A 学校は、地域の防災の拠点となっています。学校統合となれば、「避難所が遠くなって困る」などの心配をもたれると思います。

統合により使わなくなった校地や校舎は、防災拠点など、地域に必要な機能について配慮します。



Q 統合後の学区の活動はどうなるの？

A それぞれの学区には、長い時間を掛けて築き上げた地域の繋がりや、夏祭りや防災訓練などの様々な活動があります。

これまでの名古屋市の例では、学校が統合された場合でも、統合前の学区がそのまま引き継がれ、地域活動がなされています。

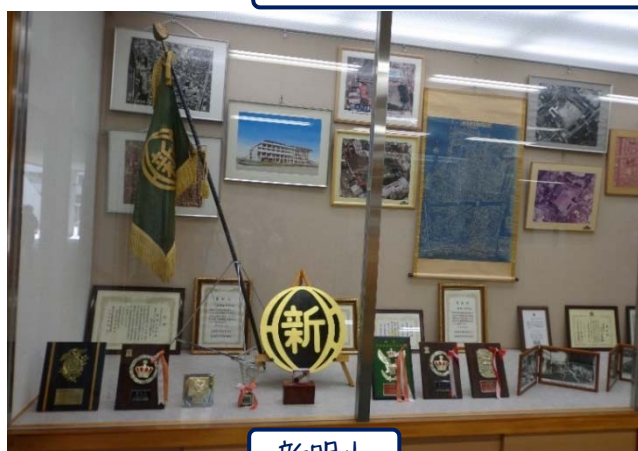


Q 統合して閉校となった学校の歴史や伝統はどうなるの？

A それぞれの学校や学区には、長い歴史や伝統が存在しています。

これまでの統合校では、記念となる物品や写真を納めた『メモリアルコーナー』を、統合後の学校に設置し、歴史や伝統を、統合後の学校でも大切に受け継いでいます。

笹島小・中学校に設置したメモリアルコーナー



新明小



六反小

Q 名古屋市には、大規模な学校はないのですか？

A 名古屋市には、31 学級以上の過大規模校があり、小規模校と同様に、学校規模が原因となる次のような課題があります。

- 学校行事等において、係や役割分担のない子どもが出る可能性があるなど、一人一人が活躍する場や機会が少なくなる
- 同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、子どもたちの人間関係が希薄になりがちになる
- 特別教室や体育館等を授業で利用しにくくなる

『ナゴヤ子どもいきいき学校づくり計画』では、このような過大規模校への取り組みを『通学区域の変更』または、『学校の分離新設』により進めたいと考えています。



過大規模校についても、望ましい学校規模を確保することで、学校ビジョンの実現を目指します。

統合校では、子どもたちがいきいきと輝いて見えます

小規模な学校を統合することで

子どもや先生の数が増え

校舎も安心・安全で快適になった学校が

名古屋市にも3校あります

そうした統合校の様子を

調べてみました



統合校について調べよう！

No. ①
Date

「名古屋市に統合した学校はあるの？」

1. 名古屋市の統合校は3つありました。

《 ほのか小 》



^{ほんじん}本陣小・^{のりたけ}則武小・^{かめじま}亀島小が、平成

14年に統合され、新校舎は平成17年に則武小の場所にできました。

それぞれの学校名の頭文字をとって、『ほ・の・か』です。

《 ^{ささしま} 笹島小・中 》

^{しんめい}新明小・^{ろくたん}六反小が、笹島中の場所で、平成22年に統合されました。

小・中が併設され、先生の連携などをしています。



《 なごや小 》



^{はばした}幅下小・^{なご}那古野小・^{えにし}江西小が、平成

27年に統合され、新校舎は平成29年に幅下小の場所にできました。

名古屋市で最も新しい統合校で、校舎はピカピカです。

統合校について調べよう！

No. ②
Date

「統合すると生活や学習はどう変わるの？」

2. 学校を統合して、全校の人数が増えた「なごや小」の生活や学習の様子を調べてみました。

《 休み時間 》



休み時間の運動場では、多くの子どもたちが、元気に遊んでいるようです。

たくさんの友だちとの遊びは、とても楽しそうです。

《 授 業 》

クラス的人数が多くなれば、グループでの話し合い活動は活発になります。

みんなと話し合うことができれば考え方も深まると思います。



統合校について調べよう！

No. ③
Date

「統合すると校舎はどうなるの？」

3. 統合した「なごや小」の、新しくなった校舎での生活や学習の様子を調べてみました。

《 教室とオープンスペース 》



教室にあるスライドする壁を動かすと、教室は 1.5 倍くらいに広がります。

机を少し動かせば、輪になって話し合うことだってできます。

《 メディアルーム（図書室・コンピュータ室） 》

図書室は広くて、本もたくさんあります。

隣のコンピュータ室ともつながっているの
で、自分のめあてに合わせて、調べ学習をすることが
できます。



統合校について調べよう！

No. ④
Date

「統合すると校舎はどうなるの？」

《 エレベーター 》

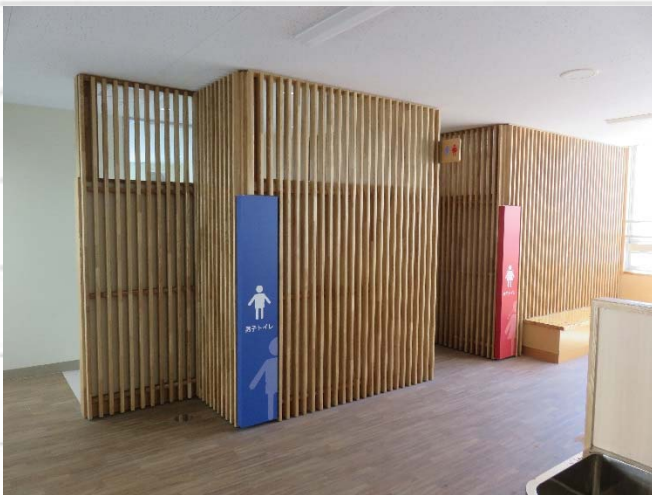


校舎内には、エレベーターが設置されています。

体調が悪くなったり、ケガをしたりした子の移動に使われています。体の不自由な方やお年寄りにも優しい校舎です。



《 トイレ 》



子どもたちのトイレは、全て乾式のトイレになっていました。掃除の負担も少なく、とても衛生的になりました。

車イスに対応したトイレもありました。エレベーターと同じで、全ての人のために優しい校舎です。

統合校について調べよう！

No. ⑤
Date

「統合して、みんなどう思っているの？」

4. なごや小の子どもや保護者の皆様に、統合してどう思っているのか、アンケートをしました。

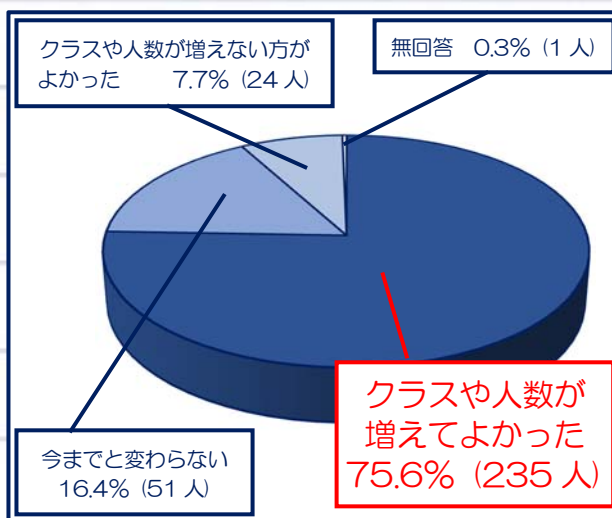
《 子どもの回答 》



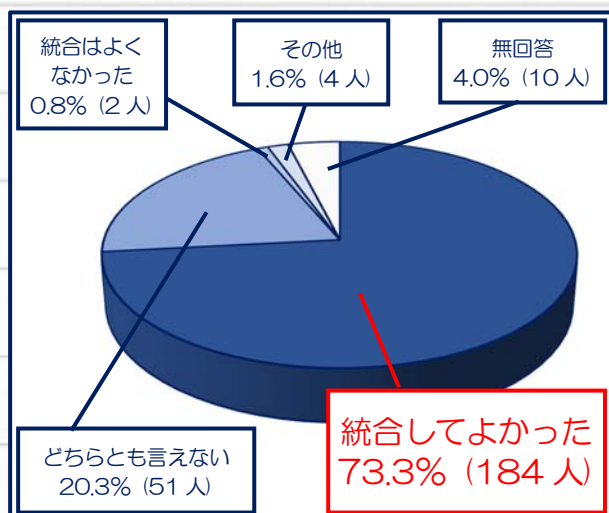
友だちがいっぱい増えました。クラスがにぎやかで、やっぱり友だちは多い方がいれなと思います。



メディアルームでの調べ学習が、とても楽しいです。図書室の本がたくさんになってうれしいです。



《 保護者の回答 》



運動会や作品展などはとても見ごたえのあるものになったと思います。人数が多いと楽しいです。



トイレがキレイになり、よかったと思います。気持ちよくトイレに行けると言っていました。



※ 新しい校舎での生活にも慣れた、平成29年12月のアンケートです。

(児童：309人・保護者：251人)

統合校について調べよう！

No. ⑥
Date

「学校の跡地はどうなるの？」

5. 統合して子どもがいなくなった学校は、どうなっているのか、跡地の様子を調べてみました。

《 ほのか小 》

亀島小の跡地には、公園や保育園が整備されていました。地域の防災機能も確保されるそうです。また、本陣小の跡地には、今後、中村区役所などが移転される予定です。

《 笹島小 》



六反小の跡地には、校舎を活用して、不登校の生徒のための私立中学校が開設されました。また、新明小の跡地には、笹島小・中の第2グラウンドと新明コミセンが設けられました。

《 なごや小 》

江西小の跡地には、校舎を活用したインターナショナルスクールとして、また、那古野小の跡地は、まちづくりの観点から、今後活用される予定です。

統合校について調べよう！

No.

⑦

Date

「統合後の学区はどうなるの？」

6. 統合後の学区の地域活動は、どうなっているのか、学区の様子を調べてみました。



幅下学区の盆踊り



江西学区の防災訓練



那古野学区の餅つき大会

これまでの統合校の全ての学区は、統合前と変わらず活動が続けられていました。

なごや小学校の幅下・江西・那古野学区でも、学区の住民の安心のための『防災訓練』や、みんなの楽しみである『盆踊り』などの活動が、これまで通りに行われています。学区の人たちも、きっと安心していていると思います。



（発行）名古屋市教育委員会 教育環境計画室

〒 名古屋市中区三の丸三丁目１－１

TEL : 052-972-3282

FAX : 052-972-4176

E-MAIL : a3226@kyoiku.city.nagoya.lg.jp

学校統合などの取り組みは、名古屋市のホームページでお知らせしています。